

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2019年3月19日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。
主要投資対象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アクチュアリティング・クラス、円建）</p> <p>主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ETF）</p> <p>マネー・トラスト・マザーファンド</p> <p>円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p>
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none">■投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。■中長期的な目標リターンとして短期金利相当分年3%程度を目指して資産配分を行います。■投資対象とする外国投資信託の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none">■年2回（原則として毎年3月および9月の15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
	<p>複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p>

人生100年応援ファンド

（資産成長コース）

【愛称：みらいストーリー】
【運用報告書（全体版）】

（2023年9月16日から2024年3月15日まで）

第 10 期
決算日 2024年3月15日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式、債券および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				公 組 入 比	債 率	投 証 比	資 信 組 託 入 率	純 総 資 産 額
	(分配額)	税 分 配	込 金	期 講 落 率					
6期(2022年3月15日)	円 11,966		円 0	% △ 6.7		% 0.0		% 98.7	百万円 548
7期(2022年9月15日)	12,402		0	3.6		0.0		99.1	626
8期(2023年3月15日)	11,817		0	△ 4.7		0.0		99.1	639
9期(2023年9月15日)	13,268		0	12.3		0.0		99.0	646
10期(2024年3月15日)	14,241		0	7.3		0.0		98.9	588

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		公 組 入 比	債 率	投 証 比	資 信 組 託 入 率	券 率
		騰 落 率					
(期 首) 2023年9月15日	円 13,268	% —		% 0.0		% 99.0	
9月末	12,956	△2.4		0.0		99.0	
10月末	12,513	△5.7		0.0		99.3	
11月末	13,306	0.3		0.0		99.2	
12月末	13,523	1.9		0.0		99.0	
2024年1月末	13,906	4.8		0.0		99.2	
2月末	14,220	7.2		0.0		99.2	
(期 末) 2024年3月15日	14,241	7.3		0.0		98.9	

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	13,268円
期 末	14,241円 (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	+7.3% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

当ファンドは、主としてE T F (上場投資信託)への投資を通じて世界各国の株式、債券およびリート(不動産投資信託)等に分散投資を行う外国投資信託証券*を主要投資対象としました。なお、世界の債券に投資するE T Fについては、為替ヘッジ付きのものを投資対象としています。
※外国投資信託証券の運用は、ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッドが行います。

上昇要因

- 先進国株式、日本株式、新興国株式が上昇したこと

下落要因

- 国内リート、米国国債の価格が下落したこと

投資環境について(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

株式市場においては先進国株式、日本株式、新興国株式はそれぞれ上昇しました。債券市場では、米国長期(10年)国債は現地通貨ベースで価格はほぼ横ばいでした。米国投資適格債およびハイイールド社債は、共に現地通貨ベースで価格が上昇しました。リート市場では、米国リートは現地通貨ベースで上昇した一方、日本のリートは下落しました。為替市場では米ドル、ユーロともに対円で上昇しました。

株式市場

先進国株式、日本株式、新興国株式を含む幅広い株式市場が上昇しました。

期初に米国長期債を中心に金利が上昇したことにより、中東情勢を含む地政学リスクの高まりから、先進国株式市場でのリスク削減の動きが見られました。しかし、11月以降、良好な経済統計データやインフレ圧力の落ち着きなどを背景に、市場ではリスク許容度が回復し、株式市場は上昇基調に転換しました。

1月には米国半導体大手の好調な決算を受け、生成AI（人工知能）にかかる業績拡大期待が広がりました。その結果、大型テクノロジー関連銘柄をけん引役に、日本株式（日経平均株価）も史上最高値を更新するなど、株式市場は大きく上昇しました。

更に、期中に中国株式市場に反転の兆しが見られたほか、インド、台湾、韓国などの新興国株式市場も良好な展開が続きました。

債券市場

米国長期国債市場は、前期末比で利回りはほぼ横ばいでした。F R B（米連邦準備制度理事会）など主要中央銀行による金融引き締めの終盤に入りながらも、期初では利回りが上昇（価格は下落）基調で始まり、その後はF R Bが早期に利下げに踏み切る期待で金利は低下基調に転換したものの、期末に向けて再度利回りが上昇しました。

投資適格社債市場およびハイイールド社債市場の価格は前期末比で上昇しました。

リート市場

欧米のリート市場は、先進国株式市場に連動し、上昇しました。

日本のリート市場は、日本銀行の政策修正を巡る不透明感から軟調に推移し、前期末比で下落しました。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

為替市場

米ドル・円は、日米金融政策を巡る市場の観測など、米国の長期金利の動向に伴う内外金利差の拡大に左右され、ボラティリティ（価格変動性）の高い展開となりました。12月中旬のF R B や日本銀行における金融

政策動向を受け、米ドルは対円で一時的に調整したものの、前期末比では米ドル高・円安となりました。

ユーロ・円も、金融政策の方向性にかかる日欧の差異などを背景に、前期末比でユーロ高・円安となりました。

ポートフォリオについて（2023年9月16日から2024年3月15日まで）

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」を高位に組み入れて運用を行いました。

**ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド
(アキュムレーティング・クラス、円建て)**

●資産配分

年率10%程度のリスク量を目標に、各国の指数に連動する債券、株式といった伝統的資産に加え、ハイイールド社債、新興国株式、内外リートを加え、為替リスクも考慮したうえでポートフォリオ全体のリスク

分散を図り、長期に安定したパフォーマンスを提供することを目標として組入れを行いました。

組み入れたE T Fは、いずれも各資産クラスを代表する指数に概ね連動するもので、グローバルな市場に分散して投資を行うという、当ファンドの目的に適しています。また、各資産への配分比率は、短期的な市場変動の際にも一定の対応力があると思われる比率を勘案したうえで決定しています。主要中央銀行の金融政策などに留意する一方、企業業績や経済指標データにおける良好なファンダメンタルズ（基礎的条件）を勘案した運用を維持しました。

期初は、予想よりも良好な決算内容を受け投資妙味が高まったと考え、日本株式のウェイトを引き上げた一方、金融引き締め政策に対する不透明感は先進国株式（除く日本）にとってネガティブな材料になると想定し、先進国株式（除く日本）のウェイトを引

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

き下げました。

1月には、これまでの上昇に対する一時的な調整リスクに警戒し、先進国株式(除く日本)および新興国株式を引き下げました。一方で、市場混乱時における安定性が高いと考えられるM S C I 日本株最小分散指数(配当込み)に連動することを目指すE T Fを引き上げました。同時に債券ポートフォリオにおいては、堅調な企業業績を背景に投資適格社債のウェイトを引き上げ、米国国債や、相対的にリスクの高いハイイールド債券のウェイトを引き下げました。

2月には、米国経済の底堅さがリスク性資産の支えとなることを想定し、先進国株式を引き上げました。一方、M S C I 日本株最小分散指数(配当込み)に連動すること

を目指すE T Fを非保有としました。また、米国債金利の上昇が重石となるとみられる新興国株式を引き下げました。債券ポートフォリオでは、金利リスクを中立程度で維持しながらも、これまで高めに保有していた投資適格社債のウェイトを落とし、米国国債やハイイールド社債へと再配分しました。リートに関しては、利回り追求の動きを意識して一定程度の保有を維持しています。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

ベンチマークおよび参考指標を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第10期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,241

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

② 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド(アキュムレーション・クラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

ブラックロック・グローバル・インベストメント・
トラスト／ブラックロック・エンハンスト・
ストラテジック・アロケーション・ファンド
(アキュムレーション・クラス、円建て)

今後、良好な経済指標やインフレ率の鈍

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたします。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

化を示唆する環境下では、株式市場は堅調に推移すると考えられるものの、ボラティリティの高い展開が継続すると想定します。新興国については、市場のリスク許容度が上昇する局面では底堅く推移する一方、中国のマクロ経済および中央政府による景気刺激策の動きが不透明感を高めると見込まれます。

債券市場については、主要中央銀行における金融引き締め懸念が後退し、金利上昇圧力が弱まったと考える一方、慎重に金利リスクの調整を行う方針です。社債市場は、ファンダメンタルズは相対的に安定的に推移すると見込まれますが、リスクオフ(リスク回避)局面においてはハイイールド社債な

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

どのリスク資産が売られやすいため、動向を注視していきます。

ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション(投資価値評価)等に留意しつつ、中長期的な目標リターンの獲得に向けて慎重なリスク量の管理を行いながらリバランス(投資配分比率の調整)を実施していく方針です。当面は、株式を相対的に高位に保有する一方で、債券の保有は抑制気味とする方針です。ポートフォリオでは、実体経済動向や金融政策動向、各資産のバリュエーション等に留意

しつつ、中長期的な目標リターンの獲得に向けてリバランスを実施していく方針です。また、ボラティリティの高い市場環境を見極めつつ、慎重なリスク量の管理を行っていく計画です。

マネー・トラスト・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。

③ お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

1万口当たりの費用明細(2023年9月16日から2024年3月15日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	76円	0.563%	<p>信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は13,453円です。</p> <p>投信会社:ファンド運用の指図等の対価 販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内のファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価</p>
(投信会社)	(22)	(0.164)	
(販売会社)	(52)	(0.383)	
(受託会社)	(2)	(0.016)	
(b) 売買委託手数料	—	—	<p>売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数</p> <p>売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料</p>
(株式)	(—)	(—)	
(先物・オプション)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	<p>有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数</p> <p>有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金</p>
(株式)	(—)	(—)	
(公社債)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	0	0.003	<p>その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数</p> <p>保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用</p> <p>監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用</p> <p>その他の費用:信託事務の処理等に要するその他費用</p>
(保管費用)	(—)	(—)	
(監査費用)	(0)	(0.003)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	76	0.566	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)

② 投資先ファンドの費用 0.25%

運用管理費用以外

0.05%

運用管理費用

0.20%

① 当ファンドの費用 1.14%

運用管理費用

(投信会社) 0.33%

運用管理費用

(販売会社) 0.77%

運用管理費用

(受託会社) 0.03%

その他費用

0.01%

総経費率

1.39%

総経費率(① + ②)

1.39%

① 当ファンドの費用の比率

1.14%

投資先ファンドの運用管理費用の比率

0.20%

投資先ファンドの運用管理費用以外の比率

0.05%

※①の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※②の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※①と②の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.39%です。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■ 当期中の売買及び取引の状況（2023年9月16日から2024年3月15日まで）

投資信託証券

		買付		売付	
		口数	買付額	口数	売付額
国内	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）	口 2,363	千円 33,100	口 9,575	千円 136,800

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

■ 利害関係人との取引状況等（2023年9月16日から2024年3月15日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年9月16日から2024年3月15日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■組入れ資産の明細（2024年3月15日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首（前期末）		期末		
	口数	口数	評価額	組入比率	
ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）	45,720.6236	38,508.4348	582,129	98.9	
合計	45,720.6236	38,508.4348	582,129	98.9	

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種類	期首（前期末）		期末	
	口数	千口	口数	評価額
マネー・トラスト・マザーファンド	64	千口 64	千口 63	千円 63

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は16,009,841口です。

■投資信託財産の構成

(2024年3月15日現在)

項目	期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 582,129	% 98.0
マネー・トラスト・マザーファンド	63	0.0
コール・ローン等、その他	11,782	2.0
投資信託財産総額	593,975	100.0

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年3月15日現在)

項目	期末
(A) 資産	593,975,600円
コール・ローン等	11,782,235
投資信託受益証券(評価額)	582,129,590
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	63,775
(B) 負債	5,177,995
未払解約金	1,711,504
未払信託報酬	3,449,729
その他未払費用	16,762
(C) 純資産総額(A-B)	588,797,605
元本	413,445,258
次期繰越損益金	175,352,347
(D) 受益権総口数	413,445,258口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,241円

※当期における期首元本額487,463,556円、期中追加設定元本額35,409,435円、期中一部解約元本額109,427,733円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2023年9月16日 至2024年3月15日)

項目	当期
(A) 配当等収益 受取利息 支払利息	△ 614円 130 △ 744
(B) 有価証券売買損益 売買益 売買損益	43,538,681 46,814,084 △ 3,275,403
(C) 信託報酬等	△ 3,469,204
(D) 当期損益金(A+B+C)	40,068,863
(E) 前期繰越損益金	70,707,087
(F) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額)	64,576,397 (58,189,801) (6,386,596)
(G) 合計(D+E+F) 次期繰越損益金(G) 追加信託差損益金 (配当等相当額) (売買損益相当額) 分配準備積立金 繰越損益金	175,352,347 175,352,347 64,576,397 (58,189,801) (6,386,596) 110,776,448 △ 498

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	40,067,751
(c) 収益調整金	64,576,397
(d) 分配準備積立金	70,708,697
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d) 1万口当たり当期分配対象額	175,352,845 4,241.26
(f) 分配金 1万口当たり分配金	0 0

■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税引前）

当期
0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）
形態	ケイマン籍契約型投資信託（円建て）
主要投資対象	主に、日本国内の取引所に上場している投資信託証券（ＥＴＦ）
運用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ●主にブラックロック・グループが運用するＥＴＦであるｉシェアーズを通じて様々な資産への投資を行い、値上がり益および利子・配当等収益からなるトータルリターンの獲得を目指します。 ●ファンドの想定リスクが大きくなる場合は、資産配分を見直し、現金等の保有比率を高める場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ●有価証券の空売りは行いません。 ●純資産総額の10%を超える借入れを行いません。 ●非流動性資産への投資比率は、純資産総額の15%以下とします。 ●同一発行体に対する投資比率は、純資産総額の10%以下とします。 <p>なお、ファンドがＥＴＦを保有している場合は、当該ＥＴＦが保有する有価証券によって投資割合を測定します。</p>
分配方針	分配を行わない方針です。
運用管理報酬	<p>純資産総額に対して 運用報酬：年0.15%程度 （副投資顧問会社に対する報酬は、投資顧問会社の運用報酬より支払われます。） 受託会社報酬：年間10,000米ドル 管理費用：最大年0.04%程度（最低年40,000米ドル） 名義書換代行費用：年0.01%程度</p> <p>※別途、当ファンドが投資するＥＴＦにおいても運用管理費用がかかります。 ※上記のほか、保管費用がかかりますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。 また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回ることがあります。</p>
その他の費用	<p>ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。</p> <p>これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>
申込手数料	ありません。
投資顧問会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・ノース・アジア・リミテッド
副投資顧問会社	ブラックロック・ジャパン株式会社
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド（アキュムレーティング・クラス、円建て）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・インベストメント・トラスト／ブラックロック・エンハンスト・ストラテジック・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■ 損益計算書（2022年1月1日から2022年12月30日まで）

(単位：円)

投資収益：

受取配当金（源泉税控除後： 64,367,645円）	559,779,464
収益合計	559,779,464

費用：

投資運用報酬	42,091,510
管理事務代行及びファンド会計報酬	11,224,400
保管報酬	6,512,960
監査報酬	3,231,695
証券代行業報酬	2,930,224
弁護士費用	1,604,275
トラスティ報酬	1,207,470
支払利息	586,970
その他報酬	60,157
費用合計	69,449,661

投資純損益

投資純損益	490,329,803
-------	-------------

実現損益と未実現損益

実現純損益	
投資有価証券	(417,785,950)
実現純損益	(417,785,950)
未実現損益の変動額	
投資有価証券	(2,749,759,579)
外国為替取引及び外国為替先渡契約	(20,752)
未実現損益の純変動額	(2,749,780,331)
実現純損益および未実現純損益	(3,167,566,281)
運用による純資産の純増減額	(2,677,236,478)

人生100年応援ファンド（資産成長コース）【愛称：みらいストーリー】

■ 投資明細表（2022年12月30日現在）

株数	銘柄	純資産 比率 (%)	公正価値 (単位：円)
	上場投資信託（99.5%）		
	日本（99.5%）		
787,433	iShares Core Japan REIT ETF	4.9	1,539,431,515
2,011,883	iShares Core MSCI Emerging Markets IMI ETF	13.7	4,249,096,896
2,893,420	iShares Core MSCI Kokusai ETF	30.0	9,331,279,500
2,495,426	iShares Core TOPIX ETF	15.6	4,866,080,700
1,625,568	iShares Core U.S. Treasury Bond	9.9	3,090,204,768
396,540	iShares MSCI Japan Minimum Volatility ex-REITs ETF	2.4	745,891,740
626,037	iShares U.S. REIT ETF	4.9	1,538,798,946
984,526	iShares USD High Yield Corporate Bond JPY Hedged ETF	6.1	1,907,026,862
1,878,830	iShares USD Investment Grade Corporate Bond JPY Hedged ETF	12.0	3,725,719,890
	日本合計（取得原価 29,586,860,277円）		30,993,530,817
	上場投資信託（取得原価 29,586,860,277円）		30,993,530,817
	投資合計（取得原価 29,586,860,277円）	99.5	30,993,530,817
	負債を上回る現金およびその他資産	0.5	140,830,446
	純資産	100.0	31,134,361,263

マネー・トラスト・マザーファンド

第8期（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		公組入社比率	債率	純資産額
		期間	中率			
4期（2019年10月15日）	円 9,980	% △0.1		% 68.7		百万円 10
5期（2020年10月12日）	9,970	△0.1		74.8		12
6期（2021年10月12日）	9,962	△0.1		70.1		15
7期（2022年10月12日）	9,958	△0.0		73.8		15
8期（2023年10月12日）	9,952	△0.1		75.0		15

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指標がないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

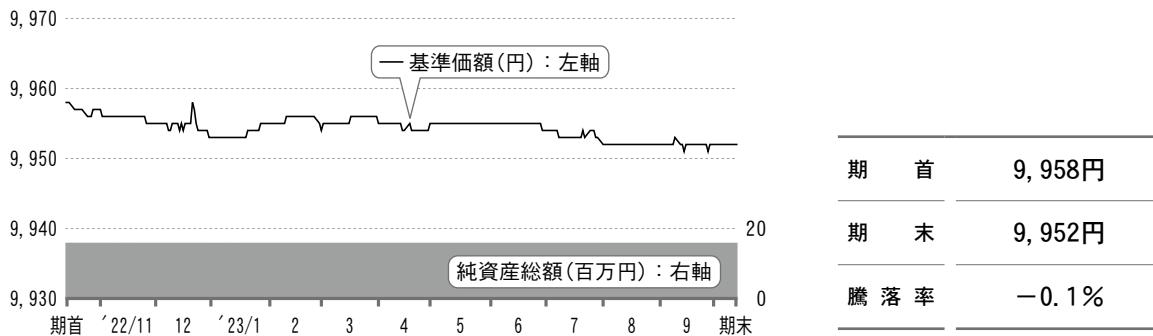
年月日	基準価額	騰落率		公組入社比率	債率
		期間	中率		
(期首) 2022年10月12日	円 9,958	% —		%	73.8
10月末	9,957	△0.0		73.7	
11月末	9,955	△0.0		73.7	
12月末	9,953	△0.1		73.8	
2023年1月末	9,955	△0.0		73.7	
2月末	9,954	△0.0		73.7	
3月末	9,955	△0.0		73.6	
4月末	9,955	△0.0		75.0	
5月末	9,955	△0.0		74.9	
6月末	9,954	△0.0		75.0	
7月末	9,952	△0.1		75.0	
8月末	9,952	△0.1		74.9	
9月末	9,952	△0.1		75.0	
(期末) 2023年10月12日	9,952	△0.1			75.0

※騰落率は期首比です。

① 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

基準価額等の推移



▶ 基準価額の主な変動要因（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

▶ 投資環境について（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

短期金利は、低下しました。

世界的にインフレが高止まりを続けたことや、欧米中央銀行による大幅な利上げの継続を背景に円安が進行したことから、国内でも物価上昇率が拡大し、CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は一時、前年比+4%台まで上昇しました。この間、日銀は市場機能への配慮や物価上振れリスクへの対応として、長期金利（10年国債利回り）の許容変動幅拡大や事実上の上限引き上げを行うなど、イールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用を柔軟化しました。しかし、日銀は賃金の上昇を伴う形での物価目標の達成を目指すために、イールドカーブ・コントロールの枠組みは維持し、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、欧米での金融不安の影響でリスク回避の動きが強まった3月や、年末越え運用ニーズが高まった9月末に、一時的に大きく低下する局面もありましたが、期を通じて概ねレンジ推移となりました。

▶ ポートフォリオについて（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヶ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▶ ベンチマークとの差異について（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

ベンチマークおよび参考指標を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

② 今後の運用方針

CPIコアの前年比伸び率は、政策効果によって+3%台に低下しており、先行きも輸入物価を起点とするコストプッシュ圧力の弱まりにより減速基調となる見通しです。日銀は賃金の上昇を伴う形での物価目標の達成に必要な時点までイールドカーブ・コントロールの枠組みを維持し、当面、マイナス金利政策を継続する見込みです。従って、短期国債利回りやコールローン（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヶ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他の費用 (その他の)	1円 (1)	0.006% (0.006)	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.006	

期中の平均基準価額は9,954円です。

*期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2022年10月13日から2023年10月12日まで）

公社債

内 国	外 内 国	買付額	売付額
		千円	千円
	国債証券	6,035	-
	特殊債券	5,940	(11,700)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2022年10月13日から2023年10月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年10月13日から2023年10月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2023年10月12日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内（邦貨建）公社債

区分	期					末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 6,000 (-)	千円 6,020 (-)	% 37.8 (-)	% — (-)	% — (-)	% — (-)	% — (-)	% 37.8 (-)
特殊債券 (除く金融債券)	5,900 (5,900)	5,925 (5,925)	37.2 (37.2)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	37.2 (37.2)
合計	11,900 (5,900)	11,946 (5,925)	75.0 (37.2)	— (-)	— (-)	— (-)	— (-)	75.0 (37.2)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

国内（邦貨建）公社債

種類	銘柄	期				償還年月日
		利率	額面金額	評価額	償還年月日	
国債証券	332 10年国債 335 10年国債	% 0.6000 0.5000	千円 3,000 3,000	千円 3,004 3,016	2023/12/20 2024/09/20	
		—	6,000	6,020	—	
特殊債券 (除く金融債券)	215 政保道路機構 3 政保新関西空港	0.6690 0.6440	3,000 2,900	3,011 2,913	2024/04/30 2024/06/26	
		—	5,900	5,925	—	
小計	合計	—	11,900	11,946	—	

■ 投資信託財産の構成

(2023年10月12日現在)

項	目	期	末
		評価額	比率
公	社債	千円	%
コール・ローン等、その他		11,946	75.0
投 資 信 託 財 產 総 額		3,987	25.0
		15,933	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年10月12日現在)

項	目	期	末
(A) 資産		15,933,729円	
コール・ローン等		3,972,122	
公社債(評価額)		11,946,553	
未収利息		14,561	
前払費用		493	
(B) 負債		153	
その他未払費用		153	
(C) 純資産総額(A-B)		15,933,576	
元本		16,009,841	
次期繰越損益金		△ 76,265	
(D) 受益権総口数		16,009,841口	
1万口当たり基準価額(C/D)		9,952円	

*当期における期首元本額16,009,841円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

*上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

*期末における元本の内訳は以下の通りです。

ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）	2,543,560円
ライフ・ジャーニー（かしこく使うコース）	2,453,434円
ライフ・ジャーニー（充実して楽しむコース）	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド（資産成長型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（3%目標受取型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（6%目標受取型）	100,141円
人生100年応援ファンド（資産成長コース）	64,109円
人生100年応援ファンド（ちよっぴり受取コース）	32,055円
人生100年応援ファンド（おもいっきり受取コース）	24,041円
MFS・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリブル（予想分配金提示型）	300,632円
ボンド・ゼロトリブル（資産成長型）	300,632円
テトラ・ネクスト	3,712,251円
MFS米国中型成長株式ファンド（為替ヘッジあり）	1,003,311円
MFS米国中型成長株式ファンド（為替ヘッジなし）	1,003,311円
PIMCOグローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06（限定追加型）	903,343円
バロン・グローバル・フューチャー戦略ファンド（資産成長型）	20,087円
バロン・グローバル・フューチャー戦略ファンド（予想分配金提示型）	20,087円
クライメート・ソリューション・ファンド	1,004,218円

*上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2022年10月13日 至2023年10月12日)

項	目	当期
(A) 配当	等収益	81,055円
受取利息	支払利	83,101
前払費用	利息	△ 2,046
(B) 有価証券売買損益	益	△88,608
売買	益	210
売買	損益	△88,818
(C) その他費用	等	△ 936
(D) 当期損益金(A+B+C)		△ 8,489
(E) 前期繰越損益金		△67,776
(F) 合計(D+E)		△76,265
次期繰越損益金(F)		△76,265

*有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。